



## 【指導事例 1】

1 主 題 「国際親善に努める」〔国際理解・国際親善〕

2 ねらい

様々な国の文化やそれに関わる事柄を関連付けながら国際親善を図った先人の生き方を知り、国際親善に努めようとする態度を育てる。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、国際連盟事務次長を務めた新渡戸稲造の功績に触れることを通して、国際親善に努めようとする態度を育むことをねらいとしています。  
前半では、新渡戸稲造が開拓を志し、札幌農学校で勉学に励んだり、教授として熱心に指導したりする様子について触れています。  
後半では、国際連盟事務次長として、「国際連盟で働くものは、自分の祖国を代表するのではなく、世界平和のために働くべきである。」と考え、私心を捨てて行動したことや、フィンランド、スウェーデン両国によるオーランド諸島の領有を巡る「新渡戸裁定」が、今も高く評価されていることが示されています。  
指導に当たっては、各国の文化等を深く理解し、「平和の扉を開いた使者」と呼ばれるような働きをした新渡戸稲造の思いを通して、真に異国の文化を理解し国際親善に努めることはどのようなことかについて考えを深めていくことが重要です。

4 展開例—①「裁定を下した稲造の行動を通して、国際理解・国際親善についての理解を深める展開」

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 私たちの道徳（5・6年 P177）の新渡戸稲造の言葉を読み、学習の見通しをもつ。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「太平洋のかけ橋」になるとは、どういうことかな。</li> <li>・どんな仕事を通して、世界の平和に尽くしたのだろうか。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教材「平和の扉を開いた使者」を読み、話し合う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「自分の祖国を代表するのではなく、世界の平和のために働くべきである」と行動した稲造の思いをあなたはどのように考えますか。                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人として、日本の利益になる行動をすることが重要ではないか。</li> <li>・文化によって考え方や行動も変わるため、様々な国の文化などを踏まえて行動することが重要ではないか。</li> </ul> </li> <li>○ 「新渡戸裁定」が最善の選択として受け入れられたのはなぜでしょうか                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・両国と住民の全員に利益があるよう、裁定してくれたから。</li> <li>・住民が、島の伝統と文化に愛着や誇りをもって生きていることを理解してくれたから。</li> </ul> </li> <li>◎ 裁定を下した稲造について、あなたはどのように考えますか。                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方の意見をよく聞き、理解しようとしているところがすばらしい。</li> <li>・互いに譲り合うことや寛容な心をもつことの大切さを裁定を通して世界に広めた功績は大きい。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲造の生き方のよさをどこに見出すか交流し、稲造が大切にしていた道徳的価値について考えることができるよう働きかける。</li> <li>・稲造が、何を考えて裁定を下したかに触れ、国際理解・国際親善について考えられるようにする。</li> <li>・道徳的価値を自分事として捉えることにつながるようにする。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国際親善について自分との関わりで考える。               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 私たちの道徳（5・6年 P178）を読み、「世界の人々と交流するために、どのようなことができると思いますか。」に自分の考えを記述しましょう。                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを大切に、広い心を持ちたい。</li> <li>・稲造のように、世界の平和のためになるような仕事に就きたい。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な文化のよさを感じたことや、国際親善に努めることについて、自分なりの考えを記述しているものを紹介する。</li> <li>■ 国際理解・国際親善について自分との関わりで考えている。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教師の説話を聞く。               <ul style="list-style-type: none"> <li>※教師の国際親善に対する思いや国際親善に貢献している人たちの取組についての話をする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際親善に努めようとする態度が育まれるようにする。</li> </ul>

## 【指導事例 2】

### 1 主 題 「日本人としての自覚や誇りを理解し、進んで他国の人と関わる」

〔国際理解・国際親善〕

### 2 ねらい

日本人としての自覚や誇りを理解し、尊重する態度を深めつつ、自分にできることを考えるなどして、進んで他国の人と関わり、より親しくしたりしようとする国際親善の態度を育てる。

### 3 展開例—②「新渡戸稲造の生き方を通して国際親善のよさについて考える展開」

#### 4 主な学習活動

(1) 新渡戸稲造の人物像を確認しよう。

- ・幼い頃から英語を学ぼうという意思があり熱意をもって学んでいた。
- ・夜間無料で授業を教えるなど、他者のために尽くそうとする思いをもっていた。
- ・フィンランド、スウェーデン両国や住民の状況を理解し、適切な裁定をした。

(2) 国際連盟の事務総長の言葉「寛容な東洋の英知」とはどんなことだろう。

- ・両者の意見を取り入れる考え方のよさ。
- ・双方の意見を十分に聞くことで、それぞれの主張で譲れるところと譲れないところを整理し、裁定に結びつけた知恵。
- ・自分の意見を主張するだけでなく、相手の主張を受け入れ、考えを生み出すことのよさ。

(3) 「世界のかけ橋」となったとはどういうことだろう。

- ・日本以外の国の人にも認められた。
- ・様々な国や地域の紛争を解決するなど、世界の平和に向け取り組んだ。
- ・異なる文化をもつ国同士を結び付け、国際交流を推進した。

(4) 新渡戸稲造の生き方から、今後、どのような生き方をしたいと感じたか考えよう。

- ・新渡戸のように、世界に認められる日本人になりたい。
- ・新渡戸のように、英語や他の外国の言葉を学び、自分の世界を広げていきたい。
- ・他の国の伝統や文化をよく知り、日本とは違う部分も受け入れていきたい。

#### □ 活用場面例（道徳科以外での活用事例）

##### ■ 国語科

読むことの学習において、興味のある人物の生き方や人生等を描いた伝記を読むことを通して、自分を見つめ直し、自分の生き方について考えることができるようにする。また、新渡戸稲造の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付けることを通して、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめることができるようにする。

##### ■ 社会科

日華事変、我が国に関わる第二次世界大戦について調べる学習において、日本の国際連盟からの脱退と結びつけて本教材を提示し、国際連盟の取組の一例を知る資料として活用することを通して、世界の平和のために構築された国際連盟から日本が脱退したことと、我が国が戦時体制に移行したこととを関係付けて考えることができるようにする。

##### ■ 社会科

平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働きに関する学習において、国際連合の前身である国際連盟の取組の一例を知る教材として活用することを通して、「世界の平和と安全を守り、国と国との争いは、話し合いによって解決する」という国際連合憲章の理念について考え、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えることができるようにする。

##### ■ 特別活動（学級活動）

日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全に関する指導において、本教材を活用することを通して、友人との関わりの中で、それぞれの主張点を捉え、その妥協点、お互いの納得を生むことの大切さに気付くなど、自主的、実践的に望ましい人間関係を築こうとすることができるようにする。

##### ■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、本教材を活用した学習の様子を家庭に伝えたり、各家庭において、外国の人々や文化を大切にするということについて話し合ってもらったりすることを通して、国際親善のための様々な活動や行動について考えを広げることができるようにする。